

1. 件名：「日本原燃(株)の設工認申請に係るヒアリング(再処理施設(2-56)、  
廃棄物管理施設(31))」
2. 日時：令和5年5月16日(火) 10時00分～11時50分
3. 場所：原子力規制庁 10階会議室(TV会議により実施)
4. 出席者  
原子力規制庁  
原子力規制部  
核燃料施設審査部門  
(原子力規制部新基準適合性審査チーム)  
長谷川安全規制管理官、古作企画調査官、岸野主任安全審査官、羽場崎  
主任安全審査官、上出安全審査官、武田安全審査官  
日本原燃株式会社 決得 執行役員  
再処理・MOX 設工認総括副責任者 他4名  
関西電力株式会社 原子力事業本部  
プラント・保全技術グループマネジャー 他1名  
東電設計株式会社 土木本部 耐震技術部 担当職

5. 要旨

- (1) 日本原燃株式会社(以下「日本原燃」という。)からの令和5年5月12  
日の提出資料に基づき、以下の事項について確認を行った。
  - ・岩盤部分の減衰定数に係る検討について
- (2) 日本原燃から、主に、以下のとおり対応する旨回答があった。
  - ・地盤の影響による(入力)地震動の減衰について、客観的に科学的なデー  
タを積み上げるといった目的に基づき、データの選定や検証方法の採用の考  
え方など技術的な根拠を明確にして改めて説明する。

6. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。  
発言者による確認はしていません。

7. その他

なし

#### 参考

- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000120.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000120.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000121.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000121.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000122.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000122.html)
- ・ 日本原燃株式会社 再処理事業所 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から再処理事業所再処理施設の設計及び工事の計画の変更の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000123.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000123.html)
- ・ 日本原燃株式会社 高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター 規制法令及び通達に係る文書（令和4年12月26日）  
「日本原燃（株）から特定廃棄物管理施設の設計及び工事の計画の認可申請を受理」  
[https://www.nra.go.jp/disclosure/law\\_new/REP/180000124.html](https://www.nra.go.jp/disclosure/law_new/REP/180000124.html)
- ・ 令和5年5月12日  
「日本原燃（株）再処理施設、廃棄物管理施設の設工認申請に関する資料提出」

時間	自動文字起こし結果
00:00:03	配本町です録音開始しました。
00:00:08	原子力規制庁竹田です。それではただいまから日本原燃とのヒアリングを開始します。
00:00:14	本日のヒアリングは、令和4年の12月26日に申請があった、再処理施設及び廃棄物管理施設の設計及び工事計画の認可申請について、
00:00:25	5月12日に提出私はもとにヒアリングを行うものになります。
00:00:31	まず、規制庁側の方で出席者を紹介いたします。
00:00:35	本庁側の出席者の紹介をお願いいたします。
00:00:40	はい。本庁側ですけれども羽場笹木
00:00:44	それから長谷川管理官、今こうなりました。それとちょっと遅れてますけれども、岸野さんが後程出席の予定です。村長は以上です。
00:00:55	規制庁竹田です。ありがとうございます。続いて部からの参加が、古作調査官、上出竹田。以上になります。
00:01:04	それでは日本原燃の方々から、出席者の紹介と、各担当の役割、本日の説明範囲、達成目標について説明をお願いいたします。
00:01:19	はい。日本原燃石田でございます。
00:01:22	本日の出席者でございますが、Steering チームとして決得野元。
00:01:30	あと石原ばあさん化しておりますあと他の臼杵矢口のメンバーも同席をさせていただいております。また耐震関係で、榎本サポートとして、
00:01:41	長谷富樫とか、参加しております。あとは東電設計の宇野さんが同席していただいています。はい。本日は1000小西。
00:01:52	ていうか、演習を出しました。岩盤部分の減衰定数等のデータをですね、整理したものを出してますのでそれについて説明質疑て対応をさせていただきたいと思っております。以上です。
00:02:12	はい。規制庁の竹田です。それでは、レートを、
00:02:17	ヒアリングの中身の方に進みたいと思いますが、提出があったでは看板の衛生定数の資料につきまして、
00:02:27	一応一通りこちらで確認をしていますが、県の方から何か説明をする内容がありましたらお願いいたします。
00:02:36	はい。関西電力の大戸でございます。この資料につきましては位置付けでございますが頭に書いておりますように、岩盤の下水定数のてっぺん

	関係の技術的研究に基づく検討結果をデータとしてお示ししているものでございまして、
00:02:52	本院の内容については補足説明資料、耐震建物 08 への取り組みは検討を踏まえてこれを覆う取り組みかどうかを含めて検討して参りたいという位置付けのものでございます。
00:03:05	本日の資料は、4月27日にのヒアリングで、ご提起いただきました基準地震動に基づく入力地震動の策定に係る今後説明事項の進め方に沿いまして、
00:03:19	別府湾のうち、1番目にご提示するとしておりました3番について大角の御説明についての位置付けのものでございます。以上でございます。
00:03:32	はい。規制庁の竹田です。ありがとうございます。砦をこの資料につきまして規制庁側から確認等あればお願いします。
00:03:41	規制庁上出です。中身に入る大分手前のところでちょっと話をしないといけないなと思ってるんですけど。
00:03:50	今、野元さんから説明がありましたとか、何か4月27日の続きですみたいな感じで、資料ができてるなと思ってるんですけど。
00:04:02	先週の火曜日ですかね、面談っていう形で、地盤モデルの進捗取り組み状況を確認。
00:04:12	している難波表。
00:04:15	ですね、原則論に立ち返ってロジックを構築した方がいいんじゃないのという話をして、
00:04:27	同意したと思ってるんですけど、そのことと、4月27日の続きですと、要は、原則論とか云々ではなくて、今の申請に使っている設計に使ってる。
00:04:40	モデルの妥当性をお肉づけしていくんだっていうやり方たに戻ってる感じがして、先週の面談で話をした内容と、今のご説明だったり、この資料の位置付けっていうのがどうもしっくりこないんですけどそのあたりどう理解する。
00:04:59	すでにでございますご説明を差し上げます。志賀おっしゃる通りの認識でうまく、我々の認識も、今神さんがおっしゃっていただいた認識と同じであると。
00:05:11	いうことはまず申し上げます。

00:05:13	ですので4月27日と通期という方なところだと従前の妥当性を説明するんじゃないかと、いうふうに、ちょっと解釈でいいんじゃないかというお話だと。
00:05:27	ということだと思うんですけどこれまで行ってそういうつもりではなくってですねちょっと27日の資料で、まずご説明したのがまずステップワンで、フラットにデータをお出しするステップツーでその設計のあり方について、
00:05:44	検討すると、いうそういう大きな流れで考えてございました。この大きな流れでのやり方自体は、同じやり方で進むのかなという認識でそういう言い方をしましたけども、
00:05:57	確かに今おっしゃる通りですね27日ヒアリングの資料で見ますと、ステップIIの検討につきまして、油田我々の設計の妥当性を説明するという、
00:06:08	ニュアンスが入った資料でございますのでそういう意味でですね、ちょっと誤解を与えると言ったようなところかというふうには思っておりますのでその点はお詫び申し上げます。
00:06:20	ですので今ご認識の通りの何て言いますか、藤さんだというふうに思っております、何か進め方としましてデータをまずお出しするという形で今、かせいただいているというふうにご理解いただければと思います。以上でございます。
00:06:40	規制庁深見です。ちょっとよくわからなかったんですけど、
00:06:47	原則論に入り、
00:06:50	原則論からロジックを積み上げていきたいと思いますというマインドではあるんだと、いうことはいいんですけど、それと、この資料を無理やり今こじつけたような回答になっているんですが送達するとちょっと同意ができないなど。
00:07:07	原則論に立ち返るんだけど、この資料はちょっと勇み足でしたと、どちらかというとその原則法に基づいた入力地震動策定プロセス、その全体像を、
00:07:20	まず説明をしてその部分能説、その部分卒そのプロセスのうち、一部分の説明がこれですよというふうにしてくれないと、資料をどう見ていいかもよくわからないってということなんです。で、

00:07:35	ちょっと今回は、順番が違っているんじゃないかなと認識しているんですけどその内、認識も同じですと。
00:07:45	関西電力野元でございます。その点はですね認識が違っております。私の認識は、おっしゃる通り策定プロセスをですね、原則論として積み上げるというところは、
00:07:58	同じなんですけれども、それをプロ、すくみ上げるにあたっては、技術関係として、データが何があって何がないのかということをもとにテーブルの上に乗せた上で、議論しないといけないのかなというふうに思っております。
00:08:13	ですので、まずは我々の持っている検討データをテーブルの上に乗せるという作業がまず必要になるんだろうと思って今回の資料の提出をさせていただいたという次第でございます。
00:08:25	そういう意味でおきまして、規制庁さんのちょっと認識の違いであればそこはつき合わせていただきたいというふうに思います。以上でございます。
00:08:35	藤規制庁上出です。
00:08:39	アプローチは幾らかあってもいいんだとは思いますが、まずは
00:08:47	ある程度そのアウトラインというかそのロジックを作り、それに対して必要なデータをとってという方が、
00:08:57	すいません、補足です。はい。神戸君五名、それで、
00:09:02	とは言っても、資料提示なりヒアリングを受けたということは、ロジックを作る前にもう、先ほど土門さんが言われたように、並べられるものは並べてもいいよということは必要しているので、
00:09:17	また振り返してもしょうがないかなと思うんですけど。
00:09:20	何で上出君が今、改めてそう言いたくなっちゃったかっていうと、この資料が、事実関係を並べるだけではなくて、
00:09:31	減衰定数を同定するといって、結果これですというように、原則論が整理されていないにもかかわらず、
00:09:40	もう次のフェーズのことまで書いちゃってるっていうことが問題なんじゃないですか。
00:09:50	下階電力の方でございます。私から発言させていただいてもよろしいでしょうか。

00:09:56	どうぞ。すみません。えっとですね、ここが一番日下さんがおっしゃっていることと、私の認識とちょっとずれがあるので合わせさせていただきな きゃいけないかなと思っていて、
00:10:07	この資料の中で、現存要素同定するという言葉遣いは確かにしております。ただこの同定すると言っておりますのは、データに基づいて、減 衰定数が、掲示板上のどこに
00:10:24	何かと言うことを、数字として秘めたというだけのものをごさいますて ある意味生のデータをお示したというだけのことでありまして
00:10:37	分析のやり方を今回ご提示して分析の結果、この数字になったということ を我々同定したというふうな表現をさせていただいております。です ので決してですね設計として用いる朝日を、
00:10:49	同定したという意図で我々使っておりませんので、そこのところはです ね、もし誤解があれば申し訳なかったと思います。以上でございます。
00:11:00	はい、古作です。趣旨は理解をしました。そういった点では誤解を私は 少なくともしていたので、そういう誤解が生じないようにちゃんと前段 を明確、
00:11:12	位置付けを明確にするっていうことが大事かなというふうに思います。 他にもいろいろと言いたいことはあるんですけど一旦網で訓練を開始し ます。
00:11:24	はい。規制庁深見です。0 そうすると、この資料今、
00:11:31	減衰を同定という金町はこんな感じですよって話ではあるんですけ ど、その
00:11:38	今回示されている7ページとかにこう減衰が出てますけど、これが、そ の原則論に立ち返った減衰定数とあと、元のやっぱ言いたいのか。
00:11:50	ここからまた何かチューニングをしてい、原則論に基づく件数というの はこれですと。
00:11:57	いう話になるのかそのあたりもよくわからないんですけど、いう話にな るのか、よくわからないですか、お考え関西電力野本でございます。今 おっしゃってる2択で言いますと後者ということだというふうに聞いて おります。今回は、
00:12:11	冒頭に申し上げましたように、生のデータをまずごて一声テーブルの上 に並べると、そのテーブルデータをですね、共有させていただいて、そ の上であるべき安否といたしますか、

00:12:27	うん。設計としての設定というものを積み上げるという作業がその次に来るといふふうに考えてございます。以上でございます。
00:12:38	はい。規制庁深見です。そういった背景なり、この後何があるのか、どういう結論に向かっているのかっていうのがわからないと。
00:12:50	我々この資料について事実確認するにしてもですね、何をどこまで確認していいのかわからないと、いうことなんです。なのでその位置付けがあり、目的みたいなところをきちんと
00:13:04	示して欲しいということなんですけどそこは理解いただけますか。
00:13:11	関西電力の郷でございます。ですね、ちょっと難しいなと思っておりますのが、今までちょっと現側の主要が設計として
00:13:25	ある意味ですねやりたいことを一方的に盛り上げるだ形で、経緯ですかそういうところの整理っていうのが足りなかったっていうようなところを議論させていただいてきたんだというふうに私は認識しています。
00:13:39	或いは今ですねこれを元としてのあるべき姿といいますか、を素直に積み上げるものをご提示しようとした時には、
00:13:50	まず、二次関係として獲られてるのが、これです。
00:14:00	古作です。すいません。野元さん、申し訳ない。ちょっと平行線的なことになってるので、私の方で考えていることをお話すると、
00:14:12	今回、事実関係としての情報提示は許容しているので、提出していただくのは結構なんですけど、ただ、
00:14:21	それどこまで今、上出が言ったようにどこまでその状況につなげば、ただ、
00:14:28	こちらが吟味する必要があるかというのは、その方向性によって違ってくるので、情報として十分ですねみたいなことは話を書く必要があるかと、情報を仕組んでみたいなのは、
00:14:43	一方で、今回提示いただいたらよかったなと思うのは、全然資料提示としての質が足りないということで、ロジックが出てきてから、今回、
00:14:54	いろいろこんな情報を出すと、議論するのもまた時間がかかるということで、0から資料1いただくという議論する機会になったというのがよかった。
00:15:06	ほぼ嫌みなんですけど、思っています。
00:15:10	で、
00:15:12	ロジックを整理をして、どういうことが議論が必要かというのを、



00:15:17	進めていくということに関しては、金曜日に面談があって、そこでその進め方の、
00:15:25	意見提示をしていただくということだったと思いますので、その際にどういう、どのタイミングで、ロジックを整理されるのか。
00:15:36	説明の更新を行っていただくのか。
00:15:40	いうことを、
00:15:42	確認させていただいた上で、今回改めてどういう資料提示が必要なのかというのを認識していただいた上で、どういう順番で、どの程度、
00:15:53	いつ確認していくかということの認識合わせができればいいかなというふうに思っています。
00:16:00	その上でちょっと神谷さんもちょっと質問等あれば言っていただけますか。
00:16:08	はい。規制庁上井手です。
00:16:12	ちょっと平行線で聞いたなあとは私も思っていてで、私としては、大分資料が足りない、その位置付けなり方向性なりも足りない自然体ロジックのどういう部分っていうのがないと、
00:16:25	なかなか事実確認もできないなというのが私の意見なんです、それに対して野本さんは、そこはあまり同意してくれなくて、何か問題なんですか。
00:16:36	このデータでいいでしょって言われてるような気がしてちょっとそのギャップをもうちょっと埋めたいなと思ってるんですけど。農産1課がですか、これでも十分だっという認識なんですか。
00:16:47	関西電力の方でございますありがとうございますおっしゃる通り、その今、なかなかすいません。上出さんとちょっとまだ隔たりがある状態だなというふうには思っていて、ちょっと私が
00:17:02	ちょっと今うまく規制庁さんのおっしゃることに同期できていないのは、最後のですね設計として設定する時には、
00:17:14	これは設計として用いるものですので、施設設計として、適切なものという観点での設定が必要になって参ります。
00:17:24	ただそれを最初に掲げてしまうと、いろんな設計上の思いなんかも入れることになってしまって、議論が非常に錯綜してしまうという反省点がある、もともとあって、だからデータ積み上げてという話になったの。

00:17:42	だというふうに思っておりました。ですので、まずですねそのデータを、何があるかということ共有させていただかないと、空中戦にばかりなって、実質的な話にならないのかなと思ってこういう話を、
00:17:59	させてはいただいていたんですけども、この今回出した資料なんかで言いますと、今、非常に足りないというようなご指摘もありましたけれども、この資料で示しているものは、この観測記録により同定したらこういう結果になりましたという
00:18:16	結果だけなんですけれども、こういう結果がえられましたということに対しては、同意いただけるのかどうかはそれでもこういう形変えられましたということに対して、やはり獲られたと。
00:18:30	いうふうなことを認めるにあたってやっぱり足りないものがあるというふうにお考えであればそのお考えもお聞きして我々ちゃんと積み上げなきゃいけないという点でちょっと非常にスモールステップですけども、
00:18:43	データの十分性といったようなところを、ご指摘いただけたらいいなと思って、私、この場に、ヒアリングに臨んでいるというところでございます。すいませんちょっとあまり歩み寄れてる
00:18:55	小さくてですね、申し訳ないんですけどももう少し、コミュニケーションとらえた件であればと思います。以上でございます。
00:19:04	はい。規制庁深見です私は結構よくわかって、
00:19:10	農産はやっぱり設計に最終的に使う数字を今、資料で定めるっていうのは、できないとそれはいろいろな設計上の思いもあるし、議長もアーティスト、
00:19:27	ということで時期尚早になってしまうので情報としては、段階的に潜りを出したいんですけどっていう話なんだと思います祖国にしてるんだなって思いました。
00:19:41	私が話を聞きたいと思っているのは先週の面談でいうと、原則論に基づくとどんな感じなんですかっていうのがまず最初にあって、その
00:19:52	次のステップでさらにじゃあ設計で、これにしましょうという話があっていいと思ってるんですそこが、ステップ踏めるんじゃないかなと思って、
00:20:02	原則論で言うと、もうほとんど MOX はもう認可してますし、MOX で十分だとは思ってるんですけど、要は原則的にはこういうところをです

	ね、そのあとで設計としてこの値を使いましょうというのを含めるので、
00:20:19	そういう意味で今いけないんですね、最終結論のところを基にして、全体像を見せない情報を、の位置付けも不明確なものを出したしまっというわけではない。
00:20:32	ということになるのであれば、まずはそのファーストステップとして、
00:20:39	ノース前全体像という、ファーストステップっていうのはこういうあらましですと、その部分について、こういう減衰の資料なんですっていうふうに出してくれるともう少し
00:20:51	こちらも確認のしようがあるなあと思っているところなんですけど、理解いただけますかね。
00:20:58	ごめんなさい。
00:21:02	古作ですけど、私が理解できない。
00:21:06	吉井。
00:21:07	何、原則をいうまでは資料出すなんて言ってるの。
00:21:16	規制庁確認そういうわけではなくて、いきなりその設計の話の話を基にしているわけではないですよということですけど。
00:21:31	ごめん、古作ですけど、なんつって、
00:21:35	だから、最終的なことを気にしないで済むように事実関係だけまず出しますと言っていることと、今上出君が後を気にして出さないということではないですよ。
00:21:47	何が違うのかわからない
00:21:53	規制庁深見です。
00:22:03	いや、
00:22:09	ちょっと狭い私の方、今混乱している状態なんですけど、
00:22:15	検索率のをまず導きましょうという話を作ったところが、これまでの話と違ってから、
00:22:26	何を言ってるのと思ってる、
00:22:29	全体ロジックなり最終的に説明するというので取りまとめるのは、当然原則論があった上で、それで構築する、だけど、
00:22:40	ヒアリングの順番として、まず事実関係だけであれば聞けますよねと言って、

00:22:45	これが提示がされているわけで、それをちゃぶ台返しするんですかって聞いて、聞いてるだけなんですけど。
00:22:56	規制庁深見です。そういうつもりもないんですけど、ただ、事実関係と言っても、何のための事実関係なのかっていうのが、
00:23:07	わからないですけど、何のための事実関係っていう意味では、施設の状況を、施設施設立地の状況かな、一致状態としての状況を把握することがまず大事ですと。
00:23:20	ということで話があって、4石田なんだという話があり、4市だけじゃなくて追加の項目もありますよねということのを会合で話し、
00:23:30	その分析を提示をしますということだったので、その点については何も現状変わってないと思うんですけど。
00:23:49	はい。規制庁深見です。そこ、同意できるんですけどなぜなってるのかちょっとよくわからないですね
00:23:59	何だろう。
00:24:00	そこで切る
00:24:03	とはいっても今回のデータは今回の資料を見る限り、
00:24:11	何か
00:24:12	原則論に立ち返ってっていう側面たんっての方向が見えないな、もう昔の皆さんもそうです。いや、いや、だから、
00:24:22	だから、
00:24:24	この資料がつけた先が透けて見えちゃってるから良くなくと、私は言っていて、
00:24:29	事実関係だけをちゃんと示し、今後、
00:24:36	原則論に立ち返ってどうを構築していくのかを説明をしますと。
00:24:41	ということだから今回提示するだけですと、
00:24:44	ということであればいいんだと思っているんです。
00:24:49	今日のヒアリングは、
00:24:52	それはもう、
00:24:53	共通理解をしているのだから、
00:24:57	とはいえ事実関係と示すに当たり、
00:25:00	ここはちょっと踏み込み過ぎじゃないかとか。
00:25:03	こういう情報をちゃんと入れないと事実関係を示したことになりませんよと。

00:25:08	いう話をしていただくんだ。
00:25:12	で、その上であっても、
00:25:16	どこまで使う必要があるか認識をしなきゃいけないということなのか。
00:25:21	で、こちらとして突っ込む程度っていうのは変わってくるから言い切るなんて難しいですよと、いうこと。
00:25:28	なのかなという気もするんです。
00:25:31	で、私もそう思うん
00:25:35	で、本当は、
00:25:37	何で Steering チームとして野本さんが来たかということと言うと、
00:25:42	こんな資料提示では足りないよと。
00:25:45	この分析をするんだったら分析方法としてここまで説明が必要でしょう。
00:25:51	入力条件としてこれは、
00:25:53	こういうところはちゃんとはっきりしないところの分析がどういうことなのかっていうのは説明できませんよと。
00:25:59	いうことを詰め切って、こんな 9 ページなんて資料じゃなくて、
00:26:03	これだけでも 100 ページぐらいの情報に普通はなるんじゃないのか。
00:26:08	というような子等について少なくとも、概念的なところで話をしていただく。
00:26:14	ということで、今後ヒアリングをするにあたってどういう資料が必要なのかどういう説明をしていくのか。
00:26:20	それを Steering チームがどういうふうに仕切っていくのか。
00:26:24	いうことを話をするのが大事なんだと思います。
00:26:27	皆さんいかがですか。
00:26:32	はい。規制庁古味です。特に後半の部分はこの後話をしようと思っていてちょっと入口のところで大分混乱させてしまったんですけど、まず、
00:26:44	入口その資料の位置付けっていう意味でいうと、
00:26:48	今の話も踏まえると、今回は、まず、地盤モデルの委員について減衰の話がファクターとして挙がってますねとそれは、会合で大きい
00:26:59	話ですと。
00:27:01	今回の紙ははじめにのところにありますけど、ここの書き方をもうちょっと気を使っていただくんだと思いますが、

00:27:11	まずは、地震観測記録が実際あるので、そう、その記録を見て、実態の地盤の減衰がどれくらい取れているのかっていうのを、
00:27:25	まずを見てみました。以上っていう、
00:27:29	ぐらいですが、位置付けとして書けないのかなと思って、
00:27:34	マスでそういうことを、
00:27:37	きちんとその前段として示した上で資料を出してもらえばよかったのかなと思いますけど、まず野本さんそんな感じでよろしいですか。こっちはです。
00:27:49	話しちゃいましたけど。
00:27:52	CAFE 出るノートでございます。僕、ここでという言葉があるところがあると思うんですけども、
00:28:05	通します。
00:28:07	今おっしゃってる、おっしゃる通りこれは、その減衰定数の値を、医師がすぐ記録に基づいて、これを分析したというだけのものであるということではここでと誤解なく書くべきだったというふうに考えてございます。以上でございます。
00:28:28	はい。規制庁神戸ですって。その上で、
00:28:32	先ほど話をしていた
00:28:37	資料としてこんなものですよっていう、いうのはですね、ちょっと詳しくはまた
00:28:46	千野さんとかからも言ってもらおうと思ってるんですけど、例えば、もう 1 ページ目で、資料の話ですから、地震観測記録の収集してますと、で、
00:28:58	最深部と、
00:29:01	要は GL-200 メーターと GL-2 メーターで同定に用いた使われてますけど、
00:29:09	何でこの-200 棟-2 メーターで、選定したのか、岡にはどんなところで取れてるのか。
00:29:19	全体取れているのがこれだけあって、その中から、これを選定しましたということですね。その選定した考え方をこういうことばすっていうところを、
00:29:31	今まで、なぜそうしたのかっていうところを、俺の、ちゃんと説明してくださいって言い続けて表現できてないところです。

00:29:43	そういうところを、津崎さん、全般の人たちがもしこういう説明をするんだったら、こういうデータもあるんだよっていうことを、
00:29:53	ちゃんと伝えて欲しいなと思ってるんですけどそのあたりって理解いただけます。
00:30:00	関西電力の方でございます。えっとですね今おっしゃってるご趣旨は理解いたしました。で、私もお存知の通り経験が麻生でございますので、この分野でどういうデータが必要に、ができるかということを経験的に私からですね、
00:30:16	100%指摘することは困難でございますけれども、規制庁さんからのご指摘におきまして、こういう点が必要だよねとおっしゃっていただいて、すいません。はい、古作です。その姿勢が駄目だ。
00:30:30	ていて、
00:30:32	Steering チーム
00:30:33	では、
00:30:35	いて、
00:30:36	これは不足しているだろうということは、これ技術論がなくてもできるんです。私だって今、反転してきます。
00:30:44	それができないんだったらそれができるシェアリング整備入れてくれということにはならないんです。
00:30:50	承知いたしました。来ました。ご承知は承知いたしました。全部けれども、今のところで申し上げますと、これCI-2です。
00:31:03	の点を、これはCだけです。もし、そういうことに関しては相田の個人のあるでしょうパソコン使っていないと。
00:31:15	ということなんですけれどもこれは一番下と一番上で、取るという趣旨であればこれはこれでありなのかなというふうに私は納得してしまったというところでございます。
00:31:28	で、なってしまったところなんですけれども、それが議席にやっぱりちょっと足りねえんだよというふうなことに思い至らなかったのかという部分点で、取り、
00:31:38	おっしゃるのであればの力で答えて、
00:31:40	ちょっとそこはやはりちょっとごみを取りながら埋めてかかっていたいただきたいというふうなところでございます。以上でございます。
00:31:49	そうです。ごめんなさい。神野さんごめんなさい。少なくとも今、

00:31:54	野本さんが言われたことは、野本さんは事前に、
00:31:59	けど、であれば、その旨が書いてないってこと自体が、
00:32:03	まず足りないんですよ。
00:32:07	その上で、できれば、ちゃう。
00:32:11	何だろう。サポーターだけじゃなくてですね。
00:32:17	メーカーなり東電設計も含めしっかりと内容を聞いた上で本当にそれ、 何でそれが妥当なのかっていうところを聞いて、
00:32:26	その妥当。
00:32:29	聞いた内容についても書くと。
00:32:32	いうことまでは、
00:32:34	普通にちょっと
00:32:36	当該部分の専門家でなくても、
00:32:38	話はできることだ。
00:32:40	少し今の野本さんの説明からすると、何らかは話をしているということ のようなので、その点、その部分まではしっかり書いて、
00:32:50	言うことは多い。
00:32:53	関連の事でございます。こういうふうに取りましたという、こういう
00:33:01	条件なんかを
00:33:02	次、なぜこのデータをそういうふうにとったのか考えたらどうなのかと いうことを、全部書きっ放しではなくって、その根拠をどういうふう に、
00:33:13	それをすべてちゃんとわかるように書き下す必要があるという 500 いた だいてるというの、理解いたしました。確かに今、
00:33:22	それらの出てる。
00:33:24	以上でございます。
00:33:27	はい、古作です。よろしくお願ひしますか峰さんどうぞ。
00:33:31	はい。規制庁深見です。
00:33:34	今ので理解をいただいたと思っているというかそういう話をこれまでも ずっと続けていたということなんです。で、もう一つ言うと今の話を聞 いてく中で、
00:33:45	野本さんは今回の資料ができ上がってから目を通したのかなっていう感 じもしたんです。で、お願いしていることはその資料、これからこれも ブラッシュアップするんですけどその作っていく最初の段階で、



00:34:01	こういうことが必要だよと。今話をしたように、データを抽出する場合には、ちゃんとなぜそれでいいのかっていうところが大事だから、
00:34:12	じゃあ今回はどんなたたちがあつてそれをどういう理由で、選んでいくのかっていうところは、作成段階での方向性を確認してもらった上で、できたものをチェックしてもらうというのが、
00:34:25	が必要なんじゃないかなと思ってますけどそのあたりもご理解いただけますかね。
00:34:34	はい。関電の大口でございます。昨年段階からデータの十分性について、ちゃんと見るべきということで案というふうに理解いたしました。そういう点でいきますと、
00:34:45	今回も確かにそのドラフトもですね、実施部隊で作ったものを私がレビューしてという形で説明はしましたけれども、
00:34:55	その過程においてこれ説明になってるのか。
00:34:59	議論をしつつやっております。一応ですね十分でなかったということ認識いたしましたけれども、そういう心持ちでちょっとやっていきたいというふうには考えてございます。以上です。
00:35:13	はい。規制庁鏡です。引き続きよろしく申し上げますで、
00:35:19	足が出た、たまたまちょっと話が出たことに-200メーターと12メーターだけでいいのかっていうことについて、こういう
00:35:29	図に、
00:35:31	他にも見ないといけないんじゃないのっていう技術的なところが、どういう部分にあるのかっていうのをちょっと本庁が川崎さんちょっと改善
00:35:42	していただけると。
00:35:44	大丈夫。
00:35:47	はい、市立尼崎、これ今回いわゆる遺伝的アルゴリズムを使って1%台の結果から、減衰定数について、
00:35:58	ピックアップしてるということはわかるんですけども、この同定のやり方って、もう先行機でもいろんなところで使われてるんですけども、普通この鉛直アレイですと、
00:36:08	どういう記録を使うかっていうのも一つのテクニックになるかというふうに考えてますんで、今回、
00:36:17	減衰定数、それも解放基盤よりもかなり下のところから、地表面近くまでを、これ一括で贈呈してるように思います。

00:36:28	で、これ最終目標は設計用地盤モデルの減衰定数の設定なわけで、そうすると、今見てるし、範囲がですね、まず設計モデルとしての適用に、
00:36:41	数あってるのかどうかっていうのがまずわからないですね、通常これ解放基盤、これ解放基盤位置でも、観測されてるわけですから、そこから以浅の記録を使うとかですね。
00:36:54	或いは、GL-200 から-125 まででそこからまた、A-18 まで-2 までというように順を追って、各層の
00:37:05	減衰定数なり、3 足の同定するってのは通常のやり方というふうに理解してますけども、
00:37:11	先ほど田部が言ったように、いきなりこれ-200 をベースに、地表面に近い位置までの一律の減衰を評価しているように見えますけれども、
00:37:22	そういった考え方が、ちょっと、何でこんな方法をとって、こういうモデル化してるのっていうところがわからないというのが我々の懸念事項です。
00:37:33	それについて何か技術的に今現状の方から回答はできますでしょうか。
00:37:41	榎本でございます。ありがとうございます。えっとですね、ここの設定の考え方につきまして私こちらの実施部隊と議論しながらそういうことかというふうに広くやらなくちゃなところであったんですけども、
00:37:57	ちょっとそこのですねももとの考え方をですねこちら原燃の方からちょっとご説明差し上げます。
00:38:04	はい。すいません日本原燃の加瀬でございます。今回の同定に当たりまして、一番地震観測記録が取れている深いところであるマイナス 200 メートルそこから地表面までの一括で出したというところがございますが、
00:38:17	まず今回の減衰定数を出すところなど、このインバージョンをかけるところの目的といたしまして、敷地としては獲られているところの全体像敷地として大体トータルで何%ぐらいなの。
00:38:28	いうところを把握するという意味で、あまり各層細かく見ていったときに、どういう場合に対してどういう減衰かという見方も当然あるかとは思いますが、今回といたします
00:38:38	我々最終
00:38:40	これ最後の
00:38:41	いたします。

00:38:43	みたいな。
00:38:45	そういう意味で敷地の地盤モデルとして、どのような減衰定数誰か線引きの地盤としてですね、どのぐらいの減衰定数の小高になるかというのを確認するという意味で、あえて一括の数字にしました。
00:38:56	その中でさらにこの一括して毎年
00:39:00	とっているところの理由といたしましては、基本的に減衰定数というのは確定値ようなところほど、大体減衰としては大体
00:39:09	あとは正村みたいなところの影響が大きくなるような表層部そういったところについては大きくなるというような傾向が実際終えられるというふうには考えてございます。そのたときに、今回のこの観測、すいません解放基盤より深いところ、
00:39:20	ある意味結構硬いようなところなんですけど、そういったところは小さく、上の方にほど実際は大きくなるというところなんですけれども、それをあえてこう均して一発のものにすることで、実際今回見たいところの岩盤のところの減衰定数である、解放基盤から
00:39:34	基礎底面レベルのところでしょうか。そちらにつきましては、大体そこがならされて逆に小さく同定されるそういったようなことのも思想もありましたので、あえてこちらの一括で平均像としてのものを出してあげた、そういったことによって看板の減衰定数として、それほど何ていうんすかね
00:39:49	余りに過大評価にならないような、そういったところの数字をねらって同定しようというところの意図がありまして、今回こういった設定にしたというところでございます。その辺が書けていないという
00:39:58	まして反省して、
00:40:03	規制庁浜崎です。今の古閑さんの説明で、それに対して、我々規制庁としてはこういう意見を持ちますこういう考えを確認しますという形になるんで、
00:40:15	今それが全くこの資料から読めないわけで、要は途中の標高レベルでの記録が、実は取り組まませんでしたんだとかですねそういう理由があるのかないのかだとかですね。
00:40:26	全くそういった情報がわからない。

00:40:28	これが先ほど冒頭古作調査官が言った資料では、中身を議論するに値しないというのが、そういった趣旨になります。それともう1点、今大橋さんもいいんだけど、もう、
00:40:42	ここまでも、設計を地盤モデルの減衰定数を睨んでというような発言があったんですけども、まずこの資料のスタンスは、
00:40:52	減衰定数として三つのエリアの地盤の定数としてですね、
00:40:58	どういうものが実態なのかというものを説明する資料というふうに位置付けられるものと考えてますので、例えばそこでやはり設計地盤モデルの減衰の話だとかが、
00:41:10	頭にあるとですね、この辺り、純粹な意味を、科学的な評価ができていないというふうに受け取ってしまうわけですので、その点10分理解した上で、資料の
00:41:23	内容について
00:41:26	検討してもらいたいというふうに考えますが、こちらの趣旨に伝わりましたでしょうか。
00:41:33	詳細。
00:41:36	推定です。
00:41:38	関西電力の方でございます承知いたしました。この資料を修正する間だけ受けてましたリファイル形で、まだ反応されていっていただく。
00:41:48	でございます。以上です。
00:41:55	小坂です。
00:41:57	一通り内容は、
00:41:59	認識を共有できたような気はするんですけど、1点小越さんの説明の中で私自身ちょっと色に落ちなかったのが、会合でも、地盤が
00:42:11	岩盤ですかね、等表層等々分けて話をしている中、
00:42:17	表層、グラウンドレベルマイナス2メートル
00:42:20	当初の方が入っちゃっていると思うので、
00:42:23	設計の方のことを念頭にという上においても、
00:42:27	その点はちゃんと説明しないといけないのかなという気もしますし、
00:42:33	今話のあったところで、
00:42:36	敷地の状況がどうで、データが同定でそれについてどういうふうに分析していくかっていう記載の中に
00:42:44	図岩盤と表層とどう分けていてというところもちょっと、

00:42:49	わかるように、ちゃんと事実関係整理をしていただければなど。
00:42:54	ソーダニッカ、
00:42:56	小幡さんす。そこら辺は整理としては、イメージてますか。
00:43:02	はい。日本原燃の長谷でございます。おっしゃる通りかと思えます。今表層漏れし、先ほど浜崎さんがおっしゃっていた解放基盤、こちらもちよっと一緒くたになっていると。
00:43:11	この度で出られたところがあるんですけどもそれが実態に即した上で、この岩盤、介護基盤に深いところは実際どうなのか、表層については実際どうなのか。
00:43:23	いうところの考察もちゃんと入れた上で、これの検討の前段にタッチなんですけど、そういったところの目的からいった時に岩盤の減衰定数っていうのをどういうふうにするか、今回の検討で、
00:43:35	ある意味最もらしい、どういうところに、というところの位置付けがちゃんと分けた上で書かないといけないなという意識をしますその辺がきちんと位置付けわかるような、書くべきだと認識いたしましたその認識で、合っているかと思っております。
00:43:48	以上です。
00:43:50	はい、古作です。よろしくお願いします。
00:43:52	以上です。三分
00:43:55	規制庁浜崎規制庁です。神谷さんです。
00:44:01	確率の続きであれば保護先さん、お願いします。
00:44:06	木内浜崎ですちょっと資料の中身に入っちゃうんですけども、その前段ですと、神谷さん先に、
00:44:15	やってもらえれば規制庁、上出です私の方から今話をしたようなところで、
00:44:26	そもそもちゃん、この資料の目的なんですかっていう、戻っちゃってそれによって、どこまで細かくだとか、資料データを示せばいいのかっていうのは変わってくると思うんですけど。
00:44:40	一般論としてですね、こういうことでうちなんですけど、技術資料作る上ではほぼ4ところの情報が普通ですよっていうところに、
00:44:52	ちょっとまた認識を合わせた方がいいと思っていてちょっとそのあたり、
00:45:00	お話いただければ、

00:45:02	はい、規制庁の岸野です。
00:45:08	それでこういう
00:45:10	特殊
00:45:12	まず、一般論というか、こういったことを説明する資料として普通流れたときに、奥津小
00:45:20	という目を見たときに幾つかやっぱりですね、足りてないなっていうところが
00:45:26	例示させてもらいますと、
00:45:29	例えば検討に用いた地震観測記録、
00:45:32	で、入力した地震は形はどういったものなのか、観測、地震観測系が、地震計が設置されている基礎状況ってのはどういったものなの。
00:45:43	といった、情報もなく、これらをですねどのように入力してどのような出力を得るのかとか、或いは今回同定に用いたモデルの初期地盤モデル、
00:45:54	言ってますけども、その作成プロセスですとか、或いは許可と変えましたってこそって言うんだろうね許可のモデルとの違いも当然説明があっべきかなと思いますし、
00:46:05	ローテの方法についてもですね、同定プロセス、
00:46:08	何と何を比較して整合させるのか、そのために何を計算してどのように調整するのか。
00:46:15	いったプロセスですとか、その入れた結果についてもですね、19地震の同定の結果はおそらくあると思うんですけど、7ページに、各エリア一つ一つの数値になっていてそこに、
00:46:27	それを導出する過程ですとか、そういったものが一抜けているなというような気はしています。で、これはどこまで、
00:46:37	今言ったことすべて盛り込んでくださいとかそういったことはもちろんなくてですね。
00:46:42	この資料の位置付け、法令の資料でどこまで説明したいのかといった目的に応じて、
00:46:52	僕まで書くのかそんなに書かなくていいのかっていうのはご判断いただく必要があるかと思いますが、
00:46:57	まず普通にこの資料を、
00:47:00	やったことを獲られた結果それが妥当かを理解する上で、

00:47:04	こういった情報で防げるんじゃないのっていう観点で気づいたところを 申しあげました。おそらく、
00:47:11	電力、
00:47:12	どっかの野本さんも、
00:47:15	これまでやられてきた資料ってのはそういうふうになってきたんじゃない かなと思いますけれども、その辺りって、
00:47:21	同じ認識持っています。
00:47:29	関西電力の能登でございます。ですね、おっしゃる通り、基本効用資料 を出し、
00:47:37	その生データから、このデータをここに入ればこういう
00:47:44	さっき出を日々する
00:47:51	んで、今、
00:47:53	足りないと、
00:47:56	また、ところを、があると、いうことを認識いたしました。で、ですね もう非常に正直なことを申しあげます。
00:48:06	はい。
00:48:07	比企池野
00:48:08	我々、私やっています。
00:48:11	そういう形を得るように、
00:48:15	もう1から10
00:48:17	金のデータを全部生データを出し、
00:48:23	来やすいように、
00:48:26	私、
00:48:28	やってございましたです。
00:48:31	けど
00:48:33	えーとですね、規制庁さんとしても
00:48:36	エトゴ必要かということは
00:48:39	都度ですね、
00:48:42	いただきながら遊びをやってきたというのが実態ではございます。
00:48:45	ですので今日ですねこういうふうにご教授いただけたというのは非常に ありがたいことだと思っております、当方が足りないという
00:49:06	広田
00:49:10	ハーベストか。

00:49:15	やっているのが、今、このですね今のモデルとって、2-2表で、一ノ瀬スタッフの本部としてお示しはするんですけども、
00:49:31	情報化技術って、
00:49:35	広木顧問申し上げます。元の方から、
00:49:41	これ、これも私、渡瀬引っ張って私が多かったよね。
00:49:46	すいません。
00:49:49	行きましてはこのPS、
00:49:53	憲法に基づく書記も
00:49:56	井戸っていうものを初期モデルとして与えた上で、それに対して減衰定数を変動さ
00:50:01	っていうところです。
00:50:02	データとして使ってるモデルの数字としてはこれで、
00:50:07	PS 検層の結果からしてるのかみたいなのが見えないなというのが、
00:50:27	これに限らず、
00:50:33	いきなり
00:50:39	そうすると、モデルに対して、当局に対しては、もっと、
00:50:44	ちょっとこれのレターを我々ご定義するか、このモデルに、あれ、いつ、何日というのであれじゃ説明があるんじゃないかと思っているということなんですけども。
00:50:56	やっておりますでしょうか。どく理由。
00:51:01	規制庁の岡崎です。
00:51:04	全体としてはそうなんですけれども、例えばですねさっき大橋さん言った表の2-2で、
00:51:12	今回、東西の地盤でこれ、
00:51:17	鉛直アレイへの地盤のPS検層、
00:51:23	結果といいますか、S波分布で示されていると思ってて、中央、
00:51:30	は、許可と同じ、今日のはぎとり地盤と同じだけれども、東西が許可のはぎとりとは違うというように、資料には確か書いてあるというふうに理解してるんですが、まずその理解で、
00:51:42	正しいですか。
00:51:45	他でどうぞでございますはい。その通りでございます。江藤。その時に、トーザ飯野、地盤に関して、



00:51:54	その許可のときはぎとり地盤と、
00:51:58	あえて違う情報に今回する必要ってというのは何か理由があるんでしょうか。
00:52:05	ちょっとここはすいません。私の理解で申し上げますと3ページのところの注記のところ、等を書かせていただいているんですけども、地震、
00:52:17	地震観測時点これ議決してございますので、2008年に移設した以降のデータを用いるという観点で、これはこういう形にさせていただいている方、いうものでございます。
00:52:36	作り直した規制庁浜崎です確かに注の1かなには書いてあるんですが、要はその許可の地盤、それから瀬、
00:52:49	説法人の地盤。
00:52:50	とは違うまた地盤条件というのはこれ出てきてましてですね、ちょっとそういう意味でも我々も、
00:52:57	PS系倉庫日直下地盤の条件だというのでは理解してはいるんですけどそれはぎとり許可の時のはぎとりとどう整合しているのとかですね。
00:53:07	そこら辺の、やはりまだ解釈といいますか、考え方書いてないわけですよ
00:53:14	そういったところも含めて、やはり違えるん違うならばその影響に対しては情報考えるとかですね或いは事実的に、
00:53:23	技術としてこの程度の3主査しかないから、東西地盤の平均地盤と、
00:53:31	ほぼ同等と言うような意見があるとかですね。
00:53:35	そういうことがなくて、微妙に変わっているというのが、我々そういったところも非常に窓のところですので、きちんとその説明を、情報をこちらの方に説明してもらいたいというのが趣旨ですが、ご理解いただけますか。
00:53:53	関連の元でございます。えっとですねここの考え方をきちんと書くべきというご趣旨だと理解いたしましたので、私の理解なんですけれども、これ、移設している、いるので、
00:54:07	そこで目標があの時とは縁が切れてしまっていると、覆れてしまっているんですけども、ちょっと今減衰のベターを、プロという、

00:54:22	2、この新しいデータとれてるデータはたくさんあるものでやった方がいいだろうということで、移った後のもので設定していると。だからもうその時には元の許可のときの、
00:54:36	場所が変わって、
00:54:39	からもセルだ、どうかというようなところはもう決まってこの薄井の方に、
00:54:46	気を寄せていったと、というような考え方でこれ検討しているものだというふうになっています。
00:54:53	ですので、ちょっと今おっしゃっていたようなもう早期境界や気候に、ほぼ、
00:55:02	ばいいんだとかいうようなそういうふうなご説明が、ちょっとすいませんなぜ必要なのかというのが、まだ1年待って、
00:55:11	申し訳ありませんちょっと補足いただけるとありがたいです。
00:55:14	はい。山崎さん先ほどの3、2008年以降移行したんで許可等の縁が切れてますみたいな話あったけどそれは非常に管理課的な話というふうに理解してます。
00:55:25	それで、2008年、
00:55:28	2 具体的には観測地点変えてるんですけども、2004年かな。前後での比較みたいな形でですね許可の資料の方にきちんと説明がありますよね。
00:55:41	で、今回、それを使うのでもいいし、いや、今回平均地盤と言われている東西の地盤と、
00:55:53	分配のこのPS検層ごめんなさい。下水を同定した時の地盤条件の違いはというもので、それは、
00:56:04	結果に対して影響するものなんだとかですね、事業者としての考え方だとかですね。
00:56:11	そういう説明は当然、必要というふうにこちらに思ってますんで、実際、許可の時も、先ほど言ったように、前後のは、比較までは行ってないですけども、
00:56:25	前後書いてますっていう形でのですね説明してるわけですから、
00:56:31	許可とが消えてますみたいな話ってのは全くそれはナンセンスというふうに理解してますので、きちんとそれは説明できるというふうに、こちらとしては考えてますけども、
00:56:41	Noさんいかがですか。

00:56:47	関連の方でございます。申し訳ありませんありがとうございます爾見竹島下で、今この辺りもこちら現側では滝調べておりましたですね、今おっしゃっていただいた内容でですね補足したいということ深く理解したというふうに思ってます。以前蒲生
00:57:07	からありました。
00:57:15	小学校あると下水も日本原燃の長谷
00:57:19	すいません。
00:57:21	行きましたのでそういうふうに思われます。
00:57:27	規制庁、田崎です。場所が若干でも変わるということはその影響も当然そうあるんじゃないのかっていう話になりますんでですね十分その考え方であったり事実について説明してくださいというのが1点。
00:57:42	それと今ちょっと橋井が次の話になるんですけども、先ほど星さんの方から心配、4ページ5ページですか、にある地盤モデルで、GL-200頭、GL-2メートルの
00:57:57	原子炉今回同定しましたというお話があったんですけども、
00:58:02	通常、この同定で使うような隠そう位置での物性値を同定する。
00:58:13	今回はS波の速度に関しては多分フィックスになるんだと思いますけども、減衰に関しても各層の一応の同定を行っている。
00:58:25	或いは、基準とする位置をGL-200ではなくて、甲斐青木坂市であるGL-125だとかですね、そういった
00:58:34	別の視点で、同定した結果であったりですね。
00:58:40	或いはその双方の比較であったりとかですね、そういう作業っていうのは、やられた上で今回の結果を出されてるんでしょうか。それとも、いやもうこの一律減衰を、
00:58:51	深沢広域率での同定しかやってませんというお話なんでしょうか。いかがでしょうか。
00:59:00	関連の方でございます今野部長に対しては後者でございます一律でやっているということです。前回から補足あればお願いします。はい。日本原燃の加瀬でございますおっしゃる通り実施としては後者で今回の上から下まで1、一括の総として扱って減衰定数を1個等で
00:59:17	出したというところになってございます。その考え方としましては先ほど私の方から口頭で申し上げました通り今回着目するところの岩盤のところの減衰定数、これが過大に同定されることのない条件であると。

00:59:29	というようなところをもって、そういうこのような設定としたという、そういった根拠を持った上でやったつもりでは、ところでございます。以上です。
00:59:37	ならないようにして浜崎です。例えばですね深さ方向の減衰の分布を見る見せ示すとした後、深さ方向、一定の
00:59:47	何%ですっていう、今分布になってるといふうにですよ。当然これ、深さ方向にも分布があるわけだと考えますので、まさにそこが東部設計の地盤モデルと直下地盤モデルの差にも繋がるんですけども、
01:00:05	これ確か深さ方向で減衰の分布がどう変わるんだっていう状況っていうのはすごい重要かというふうに考えるんですけども、原燃としてはそういう意識がない。
01:00:16	ですか。
01:00:25	説明するので、市全体として低めに見積もるとしてらるんですか、関連のこととございます。今ちょっとこちらでも、
01:00:36	おっしゃっていただいている通りですね。
01:00:38	高校の設定を行うことに対する認識が欠けていたと、ということのご指摘であればちょっとそういったところまで、
01:00:51	思いが至っていなかったところではございますけれども、
01:00:55	ですね、正直申し上げまして、今こちらでも、そのですね修繕費、2、意味合いについて、ちょっと今こちらで頭、
01:01:08	練っていると今は別に否定するわけではなくて、今おっしゃっていただいたものにちゃんと理解ついていけるかなというのは、今のところとございます。
01:01:20	すいません、もう少しだけお時間もないし、ちょっと
01:01:25	こちらで少しコミュニケーションをとってみます。
01:01:29	いつも茅根設計ですけども、
01:01:32	はい次よろしいですか。
01:01:34	今浜崎さんがおっしゃっていただいた
01:01:38	ですね、先ほど大木先生の方から、
01:01:41	話ありましたように、
01:01:43	減衰がですねおっきくなる。
01:01:49	GL-2メーター

01:01:51	衛藤邸をしております。で、実際にですねこの同定した値にですね、観測結果の GL-18 メーターと GL-125 メーターをですね、
01:02:02	元する
01:02:03	シミュレーションして、
01:02:05	実際の観測結果よりもですね同定した対応、
01:02:10	結局そこでの
01:02:12	同じように、マイナス。
01:02:15	10-8。
01:02:17	想定した場合にはですね、この結果からすると、という意味ですね減衰が大きくなるというふうな、大きくしないと合わないっていう
01:02:24	ておりますので、個別にここにですね、同定するという
01:02:30	のですが、最大値をとってみて、それが網羅されるというふうな形で今回はですね、資料の提出をさせていただくというふうに考えております。以上です。
01:02:40	規制庁の岸野です。先ほどの大橋さんのご説明と今の宇野さんのご説明も、
01:02:46	どうもぴんとこないのは、そのやり方って、一般的にやられるやり方なんですか。別の言い方をすれば、原則論にのっとったやり方なんですかということなんですけどその点はいかがでしょう。
01:02:58	当然政権の宇野でございます。はい。原則論にのっとればですね、それぞれですね GL-200 メーターと 129 メーター、200 メーターと比 18 メーター、200 メーターと 202 メーターというマニア-二名だということ。
01:03:13	ですね、それぞれの層で同定するというものが一緒に規制であるというふうに考えております。
01:03:22	規制庁の岸野です。はい。そういう認識だと我々も持ってて、
01:03:27	なぜそれをやらないのかっていうところが疑問なのを聞いてるんですけど、ご説明いただけますか。
01:03:33	はい。
01:03:35	ございます。
01:03:36	最終的にですね、我々どういうふうにするが一番件数医療器具等でございます。最終的に江原建築部長。
01:03:45	仁木 L-2 メーターで同定

01:03:47	大きいんじゃないかというふうにはですね、若干パラメータスタディですね。
01:03:51	小さいと言って、小さくなるということをですね各パラメータスタディで確認しておりますのでそれで確認しております。芝としてですね、確認するためにですね集計表、
01:04:03	比較した。
01:04:04	ので、我々は、
01:04:09	社内的な話だけやって原燃さんの的にですねそういうふうの確認をされて、この資料を提出したというふうにして考えておりますが、先ほどもおっしゃたおっしゃっていただけてますように、資料が足りないというのであればですねすべてすみません、ご説明ありがとうございます。ちょっと途中で疑問を挟みたいです。
01:04:28	何で低いところ目指してるんですか。
01:04:30	この資料の目的は何なのかっていうところから立ち返って、どういう、
01:04:36	結論を得ようとして資料を作ってるのかご説明ください。
01:04:41	はい。低いところというようなちょっと私の方、言い間違いかもしれません。一番、
01:04:52	一様にですね、表層まで考えたときに、の減衰というふうなことで考えておりましたので、
01:05:00	ちょっとそういうふうな意図してしまいました。すみません、古作です。今の言い方というよりは、この検討のスタートがそもそも間違ってたんでしょってということじゃないかなと思うんですよ。
01:05:10	何を。
01:05:12	設計、
01:05:14	使う数字として、
01:05:16	つくれるかということで検討をスタートしたので、ごめんなさい、ちょっと私の間違いという表現も悪いんです。
01:05:26	スタートしてしまっていたので、
01:05:28	改めて
01:05:32	サイトの状況っていうのはちゃんと理解をすることからの情報整理というときに、
01:05:37	仕切り直しをしてそういう情報管理をして、
01:05:42	する配慮が少し足りなかったと。

01:05:44	ということなんじゃないかなと。
01:05:46	先ほど、
01:05:48	説明が足りないということであればっていうふうな言い方もされましたけど、
01:05:53	我々から言われたからですではなくて、
01:05:56	今お話ししたように、スタンスを、位置付けを変えると。
01:06:00	ちゃんと、自分たちの状況っていうのは把握をするというところに立ったときに、
01:06:07	整理をして出すんだということに立ち返れば、
01:06:12	今言われたように1、1体でしかやってませんというふうに、途中説明されましたけど、
01:06:18	一応最後に宇野さんが言われたところであれば、その前段として社内ではやってた。
01:06:24	ということが次のような、自分たちの事実関係データである。
01:06:31	ということなので、分析に使ったのであれば、そういうこともできるというのが普通なのではないかというふうに、
01:06:37	以上です。
01:06:40	関連の分でございますまず今、
01:06:43	ちょっといただいた、
01:06:46	ですね、すみませんこの資料、
01:06:50	といたしますか、この検討そのものが、その管理座ったといたしますか、素直に出た積み上げるという認識で進めた方が必ず少しでもう、阿部須賀武田添田
01:07:06	が
01:07:07	残ってるところちょっと、
01:07:09	整理した、できていないと。
01:07:14	そういう形でですね、もう一度
01:07:22	規制庁の長谷川ですけど。
01:07:25	何、何か今、野本さんもわかったようになる。
01:07:29	で、会話がされたんで確認をちょっとさしてもらいたいんですけど、もともとこの話に気づいたのは、小口さんの説明だったんですよ。

01:07:41	で、長谷さんは、要は、全体的に見たほうが減衰が小さくなるので、岩盤の部分も多分入れると多分小さくなるということで、そして一体的に平均的にみたいだね。
01:07:57	バルクで見た方がいいというその考えが、っていうふうになってこういう話をしたんですけれども、野本さんも今の、
01:08:07	基本的には、その話だという。
01:08:11	理解ですか。
01:08:15	関西電力茂呂でございます。今の十河伊達さんの話をぜひ先ほどの尾野さんの話もですけれども、荒尾加瀬さんも宇野さんも同じ話をしている、
01:08:28	やっぱ我々のきっかけは、長谷さんの言葉が一番わかりやすかったんですよ。
01:08:35	はいはいはい。宇野さんは技術的な話が入ってしまったんだけど、緒方さんは割とストレートに言ったんで、
01:08:43	尾形さんも1回言ってみたらわかる。
01:08:48	江藤思いの紙ではですね、その用地をお願いしたいっていうのがやはりや、基本だとは思っています。その話してない。
01:08:59	はい。いや、もっとちゃんと、ちゃんとね、理解をしないこれすごいおっきな話なんですよ減衰の話だけじゃなくて、
01:09:07	我々が言う原則とか、基本的なところ、
01:09:12	ていう、ちゃんとした科学的な部分に立ちましようよというだけなんですよね。
01:09:19	だから、はい。
01:09:21	なので、小笠さんの言った言葉をちゃんと原燃が理解しないといけないんじゃないかと。
01:09:32	緒方さんが言った言葉はものすごく大きな意味を持っているというふうに僕はとらえていて、
01:09:41	多分、原燃としてはその言葉が、
01:09:46	の意味の、それを意味するところがよく理解できてないんじゃないかなんと思ってるんですよ。
01:09:55	加瀬さんは全体の減衰が小さくなるように、そういう、
01:10:00	ふうに考え方を最初から組み込ん



01:10:05	見ましたっていう説明だったんだけど本人からもう一度説明してもらっていい。
01:10:14	はい、原燃の小幡です。ちょっと管理官おっしゃられたところと言葉遣いもあえてちょっと変えたところもあるので私が言ったと。そうそう。村瀬さんの言葉で言ってもらって、
01:10:24	はい。すいません。今回の同定に当たりましては、まず、地盤の全体像、敷地内での全体像というところを見据えるっていうのが目的でありますので、まずはそこにつきましてまず査定条件です。
01:10:37	仮定条件として、下神経が地震観測記録がとれてる一番下から、うちの地盤のが実際存在してる場所。
01:10:45	地表までをトータルで同定するということを考えてみました。その時には、やっぱり今回の目的として、岩盤の減衰定数に着目するというのがこの前段の感度分析で話として出てきているところで、ですので、
01:10:59	ここの岩盤の感度分析が、ここは小さくなるではなくて、私が申し上げたのは、過大に評価しないように、ここがミソだと思っております。これで1件回収の考えが入っていると。
01:11:09	で、あくまで同定するにあたって、想定するっていうのはそれも科学的なもの追い求めるにはそんなことはしてない。やはり課題等を受けるところの関係につきまして、思ったの。
01:11:20	衛藤。
01:11:22	はい、わかりました。言葉がよくなかった課題ってどういう意味なんですか。
01:11:29	うん。はい。はい。日本原燃の小原でございます課題というのは、もう実現象に対して、実現象とえられている観測記録に対して、そこの着目すべきところの高さが、
01:11:40	それに即さないほど大きな減衰定数にならないように、現象から守らないと。でもそれは科学的にやった時には、観測記録と比較になるから減衰を余りにも大きく、
01:11:55	同定したことは、そのプロセスがもう間違ってるっていうことじゃないの。
01:12:01	過大に評価しないようにっていう言葉の使い方自体が、すでにちょっと、

01:12:08	おかしくて、科学的根拠に基づいてちゃんと検証すれば、過大にならないはずなんですよ。
01:12:17	それは例えば、ここでいう 200 メートルから 125 メートルの部分の減衰だけを見たら、
01:12:25	かなりかたいんで、減衰自体は小さいですと。
01:12:30	ていうことになるかもしれない。そっから先は大きいですと、少しそれより大きいですとかって、いうふうになっていく。だから、課題という言葉が、
01:12:41	全体として課題になってるっていうだけの話。
01:12:45	だからそう事で多分違っていいんですよ。
01:12:48	うん。
01:12:51	ていうか違うのが当たり前なんで、
01:12:59	はい。日本原燃の大橋でござい。上川のおっしゃる通りだと思いますしたいと。実際のところは層ごとに、深さごとに違うというのははい。おっしゃる通りそれがあるのは認識してございます。だからそれが過大にならないとかっていう言葉が、何かちょっとマッチングしないんで、
01:13:15	だから僕が小さいとかおっきい、要するに全体を平均したら、多分、上の方に行けば行くほど減衰大きくなってくると思うんですよ。
01:13:23	下の方が小さいから余りに大きくならない。例えば 10%とかそんなず、数値が出ちゃう可能性もあると。それは幾ら何でも昔なんか大き過ぎるだろうということの下の方が 1%だとしたら、
01:13:38	そいつを平均して小さく、見せた方がいいんじゃないかみたいな、そんなのが、感覚的に入ってしまえばそれは良くないんじゃないのっていう、そういう観点に立って物を言ってるんですけど。
01:13:57	はい。
01:13:58	はい。日本原燃の大橋ですおっしゃる通りのおっしゃる通りかと思えます可児さんがお持ちになってる 5 件については認識いたします。だから課題、課題とかって言葉ではないんですよ。
01:14:10	各層ごとに、
01:14:12	適切な手法使って同定した結果、ある区間区間では、それぞれこうでしたっていうのは、それが正しい科学的な、
01:14:25	やり方なんじゃないですかっていう、
01:14:28	そこに変な感覚的な課題とかっていう、

01:14:33	そういう言葉を使って丸める必要は、
01:14:37	ない、ないし、むしろ丸めるというその概念自体が、原燃は全体的に過大にならないように様々な評価は、
01:14:48	原燃としての基本的考え方として、すでに根底にあるんですかっていう、ここだけそういうことをやっても、
01:14:57	他ではそうじゃないとかっていうのが出ると原電としての基本的考え方っていうのが最終的には問われるわけで、それが設計思想なんですよ。
01:15:10	だから、我々、僕が言ってるのは、
01:15:14	まずは科学的に根拠をきちっと積み上げていきましょうそして設計の時には、この間言ったようにいろんなことを考えて総合的に判断すると。
01:15:27	その判断の中に、今日の加瀬さんの話だと、
01:15:31	原燃としては、過大な評価にならないように考えますというのが、原燃としての基本的考え方がそこに存在してるっていうふうにもとらえられるんだけど、
01:15:46	そういうことでよければ最後にそれやったらいいと思うんだけどね。
01:15:53	そういうことを、
01:15:55	意味してるということで大事なんですよっていう。
01:16:02	ありがとうございます。おっしゃっていただいている趣旨を、非常にありがとうございます詳細に言っていただけて非常に私、我々も気づきもさせていただきましたし、おっしゃっていただけてる通りですね少し能勢
01:16:18	形の考え方ではなくて科学的な積み上げなんであると、いう原則をやはりちょっとよくそこにその都度立ち返ってよくやりたいというふうには、
01:16:29	思ってます。これで1一事が万事なんですよ。だからみんなが、今日ね、冒頭から話してたところが全部そういうところであって、原燃の
01:16:40	説明っていうのはみんな、今日の話が一番わかりやすかったんだけど最近ではね。
01:16:47	だからちゃんと科学的に、要は、何て言うのかな、もっと客観的な立場に立って、こうやってください。
01:16:57	ていう、
01:16:58	そして事実を積み上げて、全部図を持ってる事実のデータを全部こうね、並べて、最終的にいろんな様々な

01:17:10	考察をしながら判断をしていくというそういうプロセスでやってくださいねと言っているだけなんで、だから各層で上の方行ったらもう10%とか出てきたって、それは別に全然不思議じゃないよねと。
01:17:25	うん。
01:17:26	EUむしろそうでないとおかしいよねって。
01:17:29	いうぐらいの感覚ですよ我々は。
01:17:34	そこがね野本さんちゃんと理解できましたかっていうのを、東宮が介入した時の話。
01:17:45	菅出野でございます。どうもありがとうございます。承知いたしました。よかった。それを加瀬さんは自分の言葉自体もわかった。
01:17:56	はい、日本原燃の長谷です私がしゃべったことに対し壊れたらよくわかりましたので今、科学的なもの
01:18:03	を見る上でどういうところに、
01:18:07	あれしなくていいんだよ。
01:18:10	だからさ、ね、ある根っここれ結構オーソドックスなやり方だからさ、ねそのやり方自体我々はそんなやり方駄目だとは言わないんだよね。
01:18:21	こういうデータ使ってこういうふうにやりましたっていうだけでいいんだけど、それを何か変なね、ことを、
01:18:28	加えた自体が、
01:18:30	おかしいっていうだけなんで、ちゃんと、
01:18:34	やってやったらいいんじゃない、普通に。
01:18:37	ええ。
01:18:38	日本原燃終わって、かしこまりました。それとあともう1個を基本的に、
01:18:46	許可で使ったものが前提になりますから、要するに許可通りっていうことはそういうことなんですよ。
01:18:55	すべての詳細設計に至るいろんな等を
01:19:01	条件というのは、
01:19:03	許可がスタート、なり法令許可ですから、具体的に数値的なやつっていうのは大体許可なんで、許可と違うものを使ってもそれは構わないんだけれども、それちゃんと説明が要りますよっていうのが、
01:19:18	これもまた我々の世界での原則論ですよと。

01:19:25	だから野元さんの話のように許可等施行人は、分断なんかしてなくて、連続的に繋がってますよっていう、
01:19:35	ということも忘れないように、
01:19:38	ありがとうございます。
01:19:39	承知いたしましたありがとうございます。
01:19:49	やり直しだね。
01:19:51	うん。
01:19:57	規制庁浜崎です。
01:19:59	大きなメインのところですねこちらから、この資料を確認して伝えるべき話ってというのは今のお話ですけれどもちょっと細かな話も何点かしたいと思います。資料2ページ、
01:20:12	2-1の図ですね地震観測地点、これ
01:20:17	移設する前の図111点ですかね。だから、さっきの話移設前後の話もあるんで、きちんとその施設前なら前とかですね、移設は2000、
01:20:29	8年以降は変えてますとか、そういう説明もまず必要かというふうに思ってますのできちんと説明の方お願いします。
01:20:36	よろしいですか。
01:20:39	秋田出野でございます承知いたしました。ありがとうございます。はい。それと同じ2ページの土手に用いた地震記録19記録ですかね。これ今使ってる地震はっていうのはあれですか3方向の波。
01:20:53	使ってるんですかそれともどういう波使ってるのかちょっと確認したいんですけども。
01:21:00	はい。日本原燃の具体のデータの話ですので私から回答させていただきます。今現状に至りましてはこちらに示している地震のうち、3成分、NSEWUD成分とれておりますので、そちらのデータを使っているところになってございます。
01:21:14	はい。規制庁浜崎です。使ってるデータについてもですね説明の方をお願いします。
01:21:26	白幡秀聡最後の7ページに、今回シミュレーションの結果が出てます311の時のシミュレーションですけど、
01:21:38	比較的の、

01:21:42	観測記録と合ってるように書いてあるんですけど、結構これの分析ももう少し必要かなと、例えば0.5秒から1分間かけてシミュレーションの結果って、大きくなってるのかな。
01:21:54	ようにですねさも見られるんですけども何かこの点について考察とかされてますか。
01:22:11	はい。日本原燃のガスでございます分析の方は説明我々としてはやっておりまして、そこについても説明必要があるというところは認識いたしました。自治体としてどうしてもやはり実際に見られている観測記録と、理論上実質の、
01:22:26	想定されたモデルから出てくるところの周波数特性みたいなところにちょっと社債みたいなのがでてきているもの、そういったものが影響していると思いますので、その辺がきちんとわかるような考察みたいなのが立つ必要あると認識いたしました。追加の方させていただきます。
01:22:39	はい。規制庁山崎です。お願いしますそれぞれに関連するんですけど、例えば311の地震に関して他の振動でのシミュレーションをやっているのかとか他の地震についてのシミュレーションやっているのかとか、
01:22:55	或いはシミュレーションの前に先立つ、伝達関数ですね、伝達関数の地震ごとの比較みたいな、地震ごとというか、トータルとしての同定するときの日、
01:23:06	伝達関数のアウトプットとかですね、そういったものは現状としては整理されてないんですか。
01:23:19	はい、日本原燃のガスでございます濱崎さんおっしゃる通り伝達関数のフィッティングかけているのでそちらの整理も来ているところでございます。ただ今回の結果としてお見せするものとしましては、その他の同定されているかという観点で観測記録の体現という形で見せしていたところでございますデータとしてするものとしましては、
01:23:37	すいませんそちらの方もお見せするようにすいません追加の説明とあわせ、
01:23:45	はい。規制庁浜崎です。先ほど岸野の方からも言いましたけれども、どう鉄過程部設置をどうで、ごめんなさい。
01:23:54	10を使って、物性値を同定するっていうのは別に目新しい話じゃなくて、いろんなサイトでやられてますので、そういった資料と、

01:24:04	同等或いは原因としては、このポイントは、特に説明したいというところがあったらそこに関してはより詳細にですね、
01:24:14	説明をしてもらって、要は科学的な判断が我々客観的にできるような情報の提示というものをしてもらいたいと考えてます。
01:24:23	準備の方よろしいでしょうか。
01:24:30	赤羽能登でございます。承知いたしました。元の方からお伺いすることが入ります。
01:24:37	扉の方から、はい。特にこちらからのご質問はございません。以上です。
01:24:45	はい。規制庁山崎です。私の方から以上になります。
01:24:56	常盤から確認はございますでしょうか。
01:25:04	ごめんなさい木部浜崎です。わかりません。GA使ってるってことなんで、自衛の時の条件ありますよね何だ、
01:25:15	当然比率だったとかそういった情報を説明してもらいたいんですけどもそれは可能ですか。
01:25:24	はい。日本原燃の長谷深野でございます。
01:25:27	はい。規制庁浜崎です。そういった説明も要は科学的な判断としてはやはり情報誌、判断ができ得る情報としては、十分なものを用意してもらいたいと思います。よろしく申し上げます。以上です。
01:25:49	はい。その他規制庁側から確認はございますでしょうか。
01:25:56	よろしいでしょうか。はい。大坂です。確認というよりは、振り返りの部分にもなってくると思うんですけど。
01:26:05	今日ノー話で、その紙、事実関係として資料提示するに当たって、にしても、
01:26:13	情報として、もっと、
01:26:16	どの程度やんなきゃいけなかったのかっていうようなことは認識を改めていただいたと思うんですけど、そうすると大分その作業量っていうのも増えてくると思うんですが、
01:26:27	す。そこら辺はあれですかね金曜日の面談の時に、どういうふうに進めるかっていう中で、また話を聞かせていただけたらいいんですかね。
01:26:40	出野でございます。はい。今回、

01:26:43	作業も踏まえ同意を月頃でちょっとご提示できるかあの辺の中で議論いただきまして、ちょっとどこまで800万でできるかわかりませんが、私も我々お持ちしてお話させていただきたいと思います。
01:26:58	いいよねと。
01:27:00	はい、古作ですよろしくお願いします
01:27:03	冒頭石原さんから話、出席者の紹介ありましたがその際に他の
01:27:10	Steering チームの人も同席されているということでしたけど、これはご認識いただいてると思いますけど、耐震の関係に絡む
01:27:20	ものだけじゃなくて、全般にいえることだと思ってるんですけど、
01:27:26	認識はよろしいですか。
01:27:30	てるんですけど。はい、新井田でございます。はい。そのつもりで、関係者の転勤全員ヒアリングごとに出席をさせていただこうと思ってました。
01:27:41	共通的な課題を集中的に認識をして、それぞれが対応するというところで考えてます。今日の話で特に資料としてどうあるべきかというのはもう全部に共通することだと。
01:27:51	いう認識をしておりますので、対応させていただきます。
01:27:55	はい、古作ですよろしくお願いします。実用炉の方の新基準適合の対応においても、それ以前からでもありますけど、言われたら出すみたいなことで作業をしてると延々と時間がかかってしまうので、
01:28:10	エースもどうせ言われるに決まっているのだからちゃんと、
01:28:16	議論が必要な情報っていうのは、一式まとめて出しましょうねっていうのは基本的に、新基準適合になってからのお作法というかですね、決まりごとというか運用だと思いますので、
01:28:30	その点しっかりともう
01:28:32	対応いただければというふうに思います。以上です。
01:28:37	丹出野でございます。ご指摘、承知いたしました。しっかりと対応して参りたいと思います。すいません。ちょっとその上でのお願いなんですけれども、今回の資料が足らずがたくさんあるということを今ニッピは我々したところでございます。
01:28:54	今日はですねこのを心がけてそうあるべきということで、作ったとしてもやはりですね規制庁担当の若生右田を経ないと、やっぱりグループになってるかっていうこと。



01:29:07	私が見るとは思っています。そうですね。これちょっと
01:29:11	はこれパンフレットを出しましたけれども、それをですね度ないから、いろいろはですねやはり随時やってコミュニケーションとらせていただいて、我々もそれに対してブラッシュアップしていくと。
01:29:25	やっぱりとらせていただきたいと思しますので、すいません具体的なご指摘いろいろとやっぱなくなって思しますので、ご面倒ですけども、
01:29:35	以上でございます。
01:29:37	古作です。野本さんが何を心配されてるのがいまいまいちよくわかんないんですけど。
01:29:45	少なくとももう考えてることはちゃんと述べていただきたいということで今日の前半部分でも話した通りですけど、データすべてをですねビシッと書かなきゃいけないということではなくて、
01:30:01	何を考えてるのかっていうのがわかればそれをしっかり、この部分はちゃんと提示してくださいっていうのは、後から言っても別に構わないんですけど、
01:30:11	やってることがわかんないと指摘率もできなくて、1回先送りになっちゃうんですね。なので、
01:30:19	基本的にはそういうやりとりは1回で済むぐらいの、
01:30:23	資料提示をしていただきたいと。
01:30:26	ということですんで、そういうやりとり、どの程度かっていう感覚を電力の経験者というのは持っているんだろうと私は期待をしているので、その点で
01:30:39	あまりこちらがですね言わないと出てこないっていうようなことではなく、
01:30:45	事前からですね、検討していただきたいというふうに思ってます。
01:30:51	出てきてないからヒアリングしないとかっていうことは全くしませんので、
01:30:56	頑張っって対応いただければということで、よろしくお願いします。以上です。
01:31:01	羽根の方でございます。まだ1回受けていただいて、できてないからヒアリングはできないよと、そっちもそれだけいただくと我々もですね、少し、これでいいと思って、伊達でもやはり認識がやはりちょっと違っているということは、

01:31:18	起こり得るんだらうなと私心配してこういうことを申し上げました。すみませんよろしくご指導よろしくお願いたします。以上でございます。
01:31:33	規制庁竹田ですその他規制庁側から何かございますでしょうか。
01:31:40	よろしければ原燃の方から、本市の方についての振り返りをお願いします。
01:31:53	規制庁上出です。振り返りいただくときに、先週もちょっと試しましたが、メモを移してもらってみたいな話で、さらにその時はちょっとメモを作るにしても、時間があつた方がっていう感じでしたけど、今日どういうふうにしますか。
01:32:12	はい。乳井理事長でございます。そうですね。他、再度、定義はしますけどちょっと時間いただいて、北口部の間含めて見て、そのあと画面共有して振り返りを、
01:32:24	させていただこうと思いますので、
01:32:26	5分ぐらい時間をいただければと思います。
01:32:32	はい。規制庁鏡です。じゃあ、竹田さん40分からもう一度再開にしましょうか。
01:32:39	はい。規制庁竹田です。承知しました。それでは40分に再開しますので下の方は準備の方お願いいたします。
01:32:48	はい。日本原燃志田でございます。承知いたしました。
01:32:56	本庁ですが、1回録音を停止します。
00:00:00	はいこちら本庁で録音再開しました。
00:00:05	はい。規制庁の竹田です。それでは再開いたします。それで日本原燃の方から、本日のヒアリングでの振り返りをお願いします。
00:00:16	でもございます。本日は振り返りでございます。まずちょっと各論からでございますけれども1ページ目にははじめには、地震観測記録を用いて分析を行ったのを旨とすると。
00:00:27	それから2番目、1ページ目自身が速記録の選定プロセスが具体的な考え方と説明が十分なものとなる。
00:00:35	SBOC全体構成資料としてどんなデータをどのように扱った等を実施した結果概要がトレースできるような記載を確認すること。
00:00:45	4番、気持ち良い2番構成について影響下での説明内容を踏まえ、変更点について説明を拡充すること。

00:00:53	5番、
00:00:55	下水行政については市木嶋の業務を把握するため、表層地盤岩盤基盤移行毎日にまずして、層ごとに検討分析する。
00:01:06	6番、プラグイン客観的なデータを積み上げという原則に基づき検討すること。
00:01:12	7番観測経営、家族系の位置について、移設前後を示す図を追加すること。
00:01:20	地盤シミュレーションについて、結果の考察を充実すること、また伝達関数を追加することで今日科学的に判断できる情報を記載することということで、すいません、ちょっと一般論のところは、6番ですか9番みたいなところにちょっと入ってしまいましたけれども全体
00:01:39	として、データを各的多角的にデータを積み上げるべきだ。
00:01:46	ああいう考え方に基づいてやりなさいという話と、それからちゃんとデータをトレスといいますか憲法がトレースできるような規制庁さんがコメントできるような形で、
00:02:00	ネタを出しなさいという形でいただいたというふうにしてもらえば、本日の振り返りの方からは以上でございます。
00:02:11	はい。はい、お願いします。
00:02:15	規制庁上出ですけど、一番2番は、最初に話をしたので出てますけど
00:02:21	まだ
00:02:22	今日何の会なのかみたいなのも定まってないところでの話だったんですが、結局は、さっき言われたように6番とか9番の話で、
00:02:34	この資料の位置付け、要は資料の位置付けははっきりしてくださいねっていうことなんですけど、結局はその地盤の、原燃の敷地Cですよ。野地坂野。
00:02:46	どんなものかっていうことの実事関係を説明するものなんだっていうところが最初にちゃんと位置付けとして書いてあればいいということで、それを、
00:02:57	科学的客観的なデータとして示していますと、というようなことが書いてあれば、まずはそうそうなのねという形で、
00:03:08	我々読み進めていけますからそういうことだと一番2番については理解いただければと思います。よろしいですかね。

00:03:18	はい。お金のことでございます。承知いたしました。一番はこういう具体的な話ではなくって、資料の位置付けが明確にわかるように算定の元に記載することというご趣旨と承りました。以上でございます。
00:03:32	はい。規制庁亀井ですよろしく申し上げます。位置付けなり目的なりがそういうことだということで、示されればいいですし、あとは、やっぱりポイントは
00:03:43	科学的ちゃう科学的技術的なデータを客観的にまず積み上げてくださいなとかあとは
00:03:50	何でこうなってるのっていうところがちゃんとわかるようにということで今日繰り返しお伝えしてますけど、その辺りが拡充されればと思いますのでよろしく申し上げます。
00:04:02	あと、今後の話を書いてないですけど、先ほど古作からも聞きましたけど、4月27日にはこれが第編成は第1弾と言いつつあと、具体的な進め方も書いていないということだったんですけど、
00:04:19	どういう出し物をどういう順番でみたいなところは、今週の金曜日また少し話が聞けるということでもいいんですよ。
00:04:30	はい。関西電力の方でございますはいその通りでございます。
00:04:35	はい。規制庁深見です私の方から以上です。
00:04:39	古作です。内容的には今上出が言ったところなんですけど、振り返りの仕方っていうところでメモを擦っていただいたんですけど、
00:04:49	野本さんが言われたように、6番9番っていうのが基本であって、一貫してずっと言い続けていたということなんですけど。
00:05:00	少し時間を置いている中で、なんでこれ6番9番ということになって、
00:05:06	他のかっていうので取りまとめの仕方とかで、
00:05:09	状況を教えていただけますか。
00:05:14	本田榎本でございます。ちょっとすみません江藤ご質問のご趣旨がよく理解できませんでした。IPに並べて、合うおんなじ薬とかなってたりとか、低継続があったり、
00:05:27	やっぱり頭に変えて、ていう
00:05:29	事ベース整理をするってのも、うん。5分で大事だったら十分にすればいいんですけど、そのあとはやらないとこれ、ただの出てきた順番で改廃レポートも含めてやりますっていうことなんじゃないかなと。

00:05:42	もともとやらなきゃいけないんですか。そうですね。はい。すみませんこちらの理解は今のやりとりの通りなんですけれども、それで50人あてますでしょうか。
00:05:52	はい。補足ですその通りです。前回試した時に、時間がなくてそういうことができなくて、口頭で石原さんが
00:06:02	並び替えをしながら発言をされてたというところがあって、そこら辺整理をする時間が必要だよねということだと。
00:06:11	次回以降はそこも含めて対応いただければと思いますし、そういう整理をしないと、やっぱり1ポツのところに理解っていうのが十分にならないっていうことで、
00:06:23	上出がフォローしたということだと思いますんで、次回以降そういったところを注意をしていただきたいと思います。結局
00:06:31	こんだけ数挙げていただいたんですけど、
00:06:34	ほぼその一つに集約されるんですよ。それを
00:06:42	1ポツのところでちゃんと書いてくださいねだし、2ポツ3ポツではこういうところがない。
00:06:49	現れてくるはずですよっていうことを
00:06:53	それに基づいて話をしたということなので、ご理解をいただいていると思いますけど、振り返りの際にもその点が伝わるように整理をする。
00:07:03	今後、できるようにしていただければ
00:07:05	ます。以上です。
00:07:08	出野でございます所持いたしました。
00:07:15	規制庁の竹田です。
00:07:18	最後に話があったGへのパラメーターだとかを追記するっていうのはこの9番に含まれているということで認識しておけば大丈夫ですか。
00:07:28	はい、丹野でございます。はい。その認識で結構でございます。
00:07:33	はい、わかりました認識いただいているようであれば結構です。税金の方いただければと思います。
00:07:38	その他、規制庁側から確認はございますでしょうか。
00:07:46	よろしいでしょうか。
00:07:48	それではですね本日予定していたヒアリングとしては以上になります。お疲れ様でした。
00:07:56	いやいや、ありがとうございました。

